

月刊

スクール・オブ・インターネット

SOI

連・載

インターネットで学べる学校

通信

WIDE大学 スクール・オブ・インターネットは「インターネット上の大学」です。

このコーナーでは毎月SOIプロジェクトのトピックスをご紹介します。

Vol.3

* W I D E 大 学 *

<http://www.sfc.wide.ad.jp/soi/>

オンライン試験と授業調査

ウェブ上で最終テストを実施

7月6日に、慶應義塾大学湘南藤沢校舎(SFC)で行われていた講義「コミュニケーションネットワーク論」と「メディアリテラシ」が終了しました。

大学で1つの講義が終了すると、試験が行われるのが普通です。SFCの学生は大学で試験を受けることとなりますが、SOIで受講している人たちはどうやって試験を受けたのでしょうか。

村井純教授の「コミュニケーションネットワーク論」では、SFCで授業を受けている学生以外の履修者を主な対象として、実験的にテストを行いました。

このテストは、通常の筆記試験をインターネット上で行うための実験として位置付けられ、24時間という時間制限付きで実施されました。最終テストに参加するかしないかは履修者の判断に任せられましたが、答案を提出するとSOI事務局から単位認定証が発行されます。

SOIのように、遠隔地からの受講が本格化すれば、受講者の習熟度を計って単位を認定することも考えていかなければなりません。今回のテストは、その足掛かりになったといえるでしょう。

授業調査は暗号化を利用

また、授業の終了にともなって、講義に関する感想や要望を受け付ける「授業調査」を行っています。

今回の授業調査は、回答内容が何者かによって改ざんされたり、個人のプライバシーを侵害されたりしないように、WWWブラウザの暗号化機能を利用して行われました。

受講者がSOIのサーバーにアクセスすると、調査専用IDが発行され、この調査専用IDがないと授業調査に回答できないという仕組みになっていました。こうすることで、回答者の認証と、改ざんや捏造の防止、匿名性の保証が実現したのです。



24時間の制限付きで実施された最終テストの問題



SOIから証明書が発行され、通信は暗号化される

新講座がスタートしました

多くの大学は、7月から8月にかけて夏期休暇に入っていますが、WIDE大学は休むことなく、新しい講座がスタートしています。

4月から7月には、慶應義塾大学湘南藤沢校舎(SFC)で行われていた授業をすぐにリアルビデオにエンコードしてサーバーに置いていました。奈良先端科学技術大学院大学でも4月から6月にかけて講義が行われていましたが、今回はこれをストックしておき、7月から9月にかけて公開していきます。大学生からは「自分自身が夏期休暇に入ったので、ほかの講義をじっくり受講できる」という感想も寄せられています。

今回公開されたのは、時系列信号と画像情報のデジタル信号処理についての「計測情報処理」(講師：千原國宏教授)と、コンピュータネットワークを支える技術に関する「情報ネットワーク論」(講師：山口英助教授)の2つです。いずれも、デジタル技術やネットワーク技術の根幹部分を基礎から学ぶ重要な講座です。

講師・講座名	各回のテーマ
計測情報処理 千原國宏	第1回 計測・制御・情報
	第2回 信号表現(1)
	第3回 信号表現(2)
	第4回 信号処理(1)
	第5回 信号処理(2)
	第6回 画像計測
	第7回 超音波映像法(1)
	第8回 超音波映像法(2)
	第9回 Fourier Imaging
	第10回 仮想現実感応用(1)
	第11回 仮想現実感応用(2)
情報ネットワーク論 山口 英	第1回 階層型プロトコルとは
	第2回 TCP/IPの概要
	第3回 データリンク技術(1)
	第4回 データリンク技術(2)
	第5回 LAN技術
	第6回 メディアアクセス方式
	第7回 ネットワーク層プロトコルとIP
	第8回 アドレス解決・ICMP・経路制御(1)
	第9回 アドレス解決・ICMP・経路制御(2)

上記の講義は、奈良先端科学技術大学院大学で1998年4月から6月まで開講されたものです。

SOIに関するQ&A

アンケートやSOI-BBSなどには、さまざまな質問が寄せられています。今回はその中のいくつかにお答えしましょう。

Q：SOIの受講登録をしましたが、この授業は無料で受けられるのでしょうか？

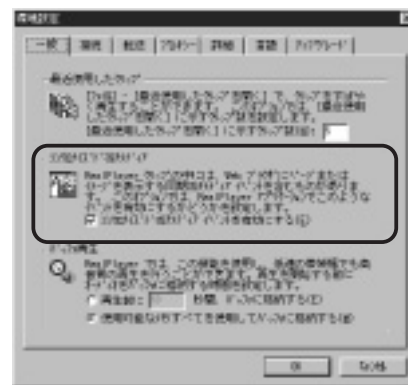
A：SOIでは、現在のところすべての授業を無償で公開しています。これは、実験という位置付けで、厚意の大学から無償で授業を提供してもらっているためです。

将来的に、WIDE大学を本格的に運営するためには、授業料が必要になると思われます。今後オンライン授業のスタイルや課金方法が確立したときのために、SOIでは受講者の認証などの実験にすでに取り組んでいます。

Q：リアルビデオとWWWブラウザの板書が運動するというのですが、ブラウザがトップページで止まったまま、まったく動きません。どうすればいいですか？

A：ビデオとブラウザを連動させるリアルプレーヤーの機能「シンクロナイズドマルチメディア」の設定ができていない可能性があります。

リアルプレーヤー5.0の場合は、メニューから「表示」(View)、「環境設定」(Preference)を選びます。「一般」(General)のタブをクリックすると、中段に「シンクロナイズドマルチメディア」(Synchronized Multimedia)の設定がありますので、「シンクロナイズドマルチメディアイベントを有効にする」(Enable Synchronized Multimedia Events)をチェックしてください。



「シンクロナイズドマルチメディア」をオンにしよう

講座紹介・・・

SOIでは、通常の講義以外にも、さまざまな分野から講師をお招きして講演を行っています。今回はその中から6月に行われた2つの特別講演を紹介しましょう。

「Accessibility - 障害者のコンピュータ利用」

慶應義塾大学 修士1年生 中根雅文氏

この講演は、慶應義塾大学の徳田・村井・楠本・中村研究室に所属している修士1年生、中根雅文氏が行ったものです。

中根氏自身が視覚障害を持っていることもあり、「障害を持った人がどのようにインターネットにアクセスできるか」をテーマに行われました。

現在、一般的にコンピュータは画面の内容を確認できることや、マウス、キーボードを使うことが前提に作られています。しかし、たとえば視覚障害を持つ人にとっては、画面出力を確認することは困難なことなのです。

これを解消するためには、文字情報を音声に変換する「読み上げソフト」などが有効です。実際に、ウェブページの内容を把握するために、HTMLの中から情報を抽出して音声化するソフトも開発されています。

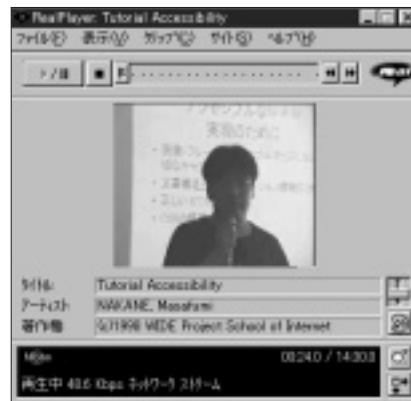
こうした技術をさらに有効に使うためには、ウェブページの制作者の協力も必要です。たとえば、あなたはGIF画像を使うときに属性タグ(ALT=)を書いているでしょうか。読み上げソフ

トで画像名がわかって、実際にどのような画像が表示されているのかわかりません。もし属性タグに画像の説明が書かれていれば、内容が把握できるのです。

「アクセシビリティ」とは「誰もが利用できる」ということです。この講演を聞いて、ぜひアクセシビリティについて考えてみてください。



スライドでは、障害者のコンピュータ利用の実例が多く紹介されていた



自分の体験を交えて語る中根氏

「デジタル社会とインターネット最新事情」

マイクロソフト株式会社 代表取締役会長 古川享氏

6月22日には、マイクロソフトの古川享会長が「デジタル社会とインターネット最新事情」という特別講演を行いました。今後インターネットをどう利用するか、そしてどのように発展させていくべきかなどについて、経営者としての視点だけでなく、技術者、ユーザーとしての視点を交えてお話していただきました。

この講演の事前に、「米国においてマイクロソフト社が独占禁止法違反の疑いで提訴されていることについて調べ、コメントを述べよ」、「WebTVについて調べ、コメントを述べよ」という課題が受講生に出されていました。当日は、この課題の内容にも触れながら進められました。

WebTVや衛星インターネットなどのサービス

のほか、坂本龍一氏や松任谷由実氏のコンサートにおける新しい音楽流通の試みなどを例にとり、インターネットの発展について熱く語っていただきました。

これらの特別講演についても、通常の講義と同じように使用されたスライドを参照できます。また、トピックスからビデオを検索することもできるので、興味のある話題をピックアップして見ましょう。



OSから音楽流通、情報家電など、取り上げられるトピックスは幅広い



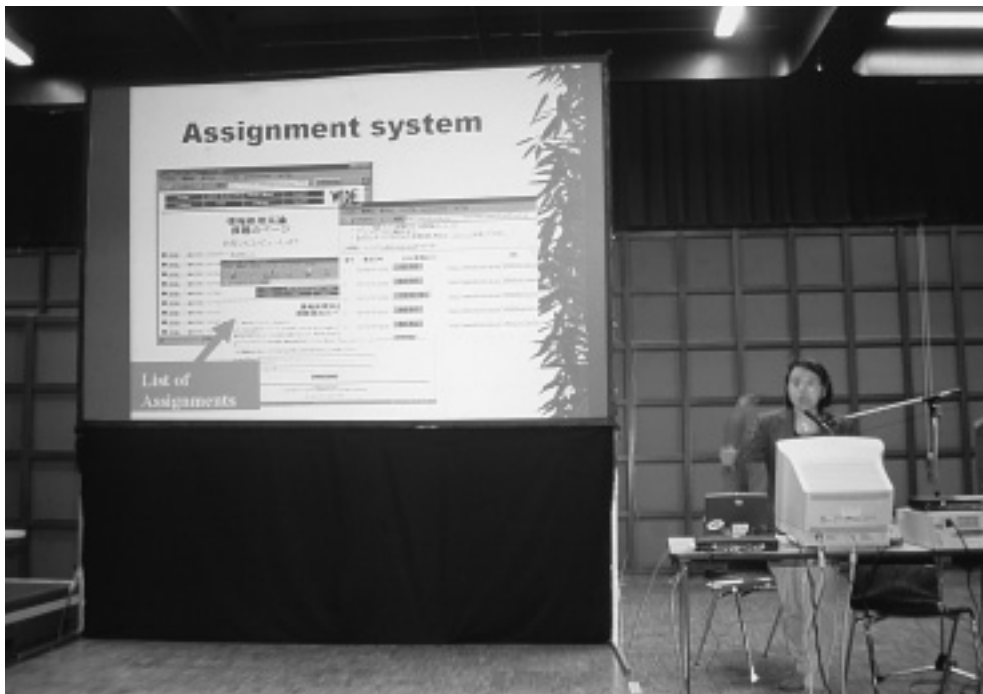
INET'98でSOIプロジェクトが論文を発表

世界で注目を集めるSOI

98年7月に、スイスのジュネーブでインターネットソサエティ（ISOC）主催の国際会議「INET'98」が開催されました。これは、世界中のインターネットの研究者が集まり、研究成果の発表や重要な会議が開かれる年次総会です。

その学会で、SOIプロジェクトは「"School Of Internet" - A University on the Internet」という論文を発表しました。論文発表では、授業のシステムの説明や受講者の数の推移、目標の到達度や今後の課題を説明しました。

他国からも、インターネットを使った教育に関する論文の発表がありましたが、受講者の数やリアルビデオのシンクロナイズドマルチメディアをうまく使ったSOIの授業は完成度が高く、出席者からも高い評価を得ています。



INET'98で発表を行うSOIプロジェクトリーダーの大川恵子さん

SOIプロジェクトの広がり

現在、SOIのホームページや雑誌の記事によって、SOIが広く知られるようになってきました。日本国内の大学生だけではなく、一般の社会人や、海外に在住している人からのアクセスも増えています。

SOIプロジェクトの目標は、「インターネット

をインターネットで学ぶ大学」、「いつでもどこでも学べる大学」、「だれでもが学生になって、世界中の先生から授業が受けられる大学」です。参加者のフィードバックから、必要とされる環境や

解決しなくてはならない点、次の目標、などが見えてきます。これを実現するためにも、より多くの地域、より多くの人の参加が必要なのです。



受講生募集中！

9月以降も、SFCをはじめ、豊橋技術科学大学、東京工業大学などの講座が公開される予定になっています。また、すでに終了している講座もライブラリーとして保存されており、トピックスで内容を検索することもできます。

詳細はSOIプロジェクトのページをご覧ください！

URL <http://www.sfc.wide.ad.jp/soi/>

SOIの受講に必要なものは、インターネットが利用できる環境と、「学びたい」という意欲だけ。すべての講座は無料で受講できます。ぜひSOIに参加してください。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp